

館蔵浮世絵
版画展

上洛

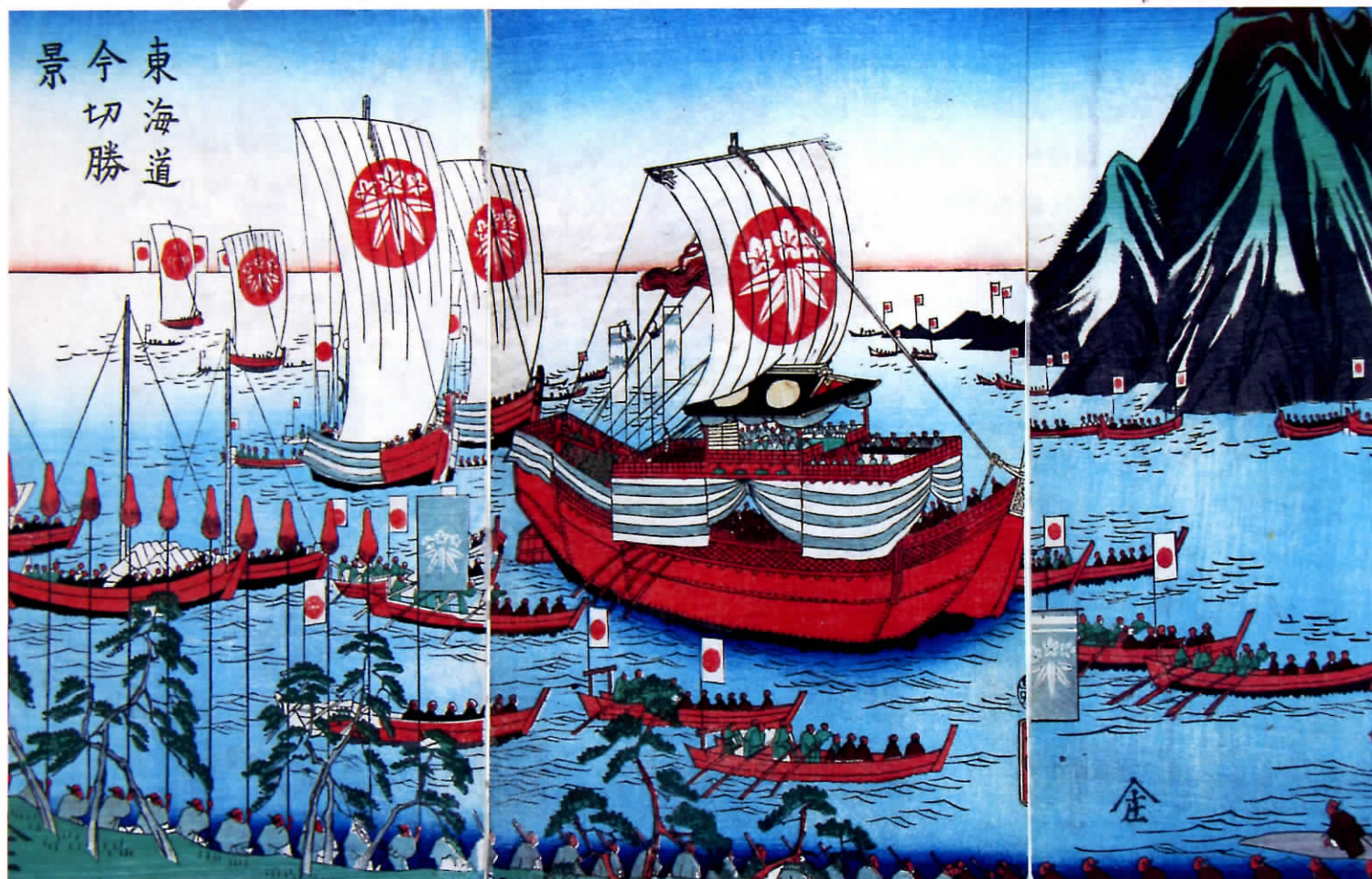
を描いた版画

ときは幕末
東海道をうめ尽くす
豪華絢爛の將軍行列

令和4年 1/4(火) ▶ 2/27(日)



新居関所史料館



東海道今切勝景（歌川芳虎）

開催にあたって

「上洛」とは、朝廷がある京都に入ることです。幕末の文久3年(1863)に行われた14代将軍家茂の上洛は、3代将軍家光の上洛以来229年ぶりのことでした。浮世絵師たちを随行させ、この世紀の大行列の様子を描かせたものが上洛図です。

攘夷か開国かに揺れる緊迫した時代背景のなか、将軍の権威を誇示する大軍の行列と、それを迎える東海道の宿場の風景を描いた浮世絵29点をお楽しみください。

新居関所史料館

将軍の上洛

文久3年(1863)2月13日、第14代将軍徳川家茂は江戸を出発し、東海道を22日間かけ京の二条城を目指しました。

家茂の上洛は、3代将軍家光の上洛を最後に実に229年ぶりに行われました。家光が上洛した際は27万人余りの部隊だったのに対し、家茂の上洛時には3千人あまりの供奉^{くぶ}でしたが、229年ぶりの上洛は当時の人々にとって歴史的なイベントであったと言えます。

そして、家光の時とは異なり、上洛の御^お供建^{ともだて}は、鉄砲方、武道の師範、騎馬隊、砲術隊などの軍装行列で、東海道の沿道には各藩の武装兵が防備を固め、海上では幕府の軍艦3隻によって護衛に当たらせるほどの警戒ぶりでした。街道の人々は、その物々しい武装かつ豪華絢爛な将軍行列に眼を奪われたことでしょう。

では、なぜ家茂は上洛をしたのでしょうか。それは、幕末の攘夷か開国かに割れる

世情が関係しています。尊王運動の高まりの中、朝廷の権威をかりて権威を保とうした幕府は、朝幕間を円滑にするため公武合体を画策し、家茂の正室に皇女和宮の降嫁を望みました。攘夷論者であった和宮の兄孝明天皇は、幕府に攘夷の実行を誓約させ、婚姻を許可しました。家茂は攘夷の勅命に対し、「いかに攘夷を実行するか衆議を尽くした上で上京し、委細を申し上げる」と答え、上洛することになったのです。しかし、欧米列強の強大さを認識していた家茂は、天皇の攘夷の考えを懐柔するために上洛したのでした。

その後も家茂は、元治元年(1864)と慶応元年(1865)の2度上洛をすることになりますが、3度目の上洛の第2次長州征伐の際に病により大坂城で没しました。

こうした緊迫する幕末の動乱のなか挙行した上洛に、幕府は16名の浮世絵師たちを随行させ、行列の様子を描かせました。

凡例

- 1 本書は、令和4年1月4日(火)から2月27日(日)まで、新居関所史料館で開催する館蔵浮世絵版画展「上洛を描いた版画」の展示解説図録です。
- 2 図録番号は陳列の順序通りではありません。

No. 1

東海道名所図会

日本橋～京

歌川芳虎 元治元年(1864)10月 縦大判 12枚続

日本橋から京までを描いた大作。複数枚つなげると1枚の絵に見える浮世絵を「続絵」という。単独1枚でも鑑賞できるようになっている。作品のタイトルにもあるように、行列を描きながらも街道ごとの名所や名物の紹介をしており、新居の名物は「うなぎ」とある。府中（静岡）から人物の描写が詳細になっている。



No. 2～13

御上洛東海道

歌川芳虎他 文久3年(1863)4月～ 縦大判

歌川派の絵師によって、文久3年(1863)の将軍家茂の上洛の様子が描かれた東海道名所風景。ほとんどの図に軍装行列が描かれていることから通称「御上洛東海道」と呼ばれている。162点にものぼる揃物で、風景版画でありながら、報道性を帯びたものであった。



歌川貞秀 東海道之内生麦



歌川芳虎 東海道神奈川



歌川芳盛 東海道箱根



二代歌川国綱 東海道島田



二代歌川国綱 東海道袋井



歌川芳盛 東海道浜松



月岡芳年 東海道舞坂



三代歌川豊国 東海道荒井



二代歌川国綱 東海道白須賀



豊原国周 東海道之内二川



三代歌川豊国 東海道吉田其二



河鍋周麿 東海道名所之内
秋葉山

No.14~22

末廣東海道

月岡芳年他 慶応元年(1865) 閏5月 縦大判

慶応元年5月の第2次長州出兵に向かう將軍家茂の上洛を各宿の風景の中に描いたもの。舞坂一新居間の今切の渡しには御座船が使用された。船の帆に描かれている紋は笹竜胆(ささりんどう)という清和源氏の代表紋。徳川將軍を直接描くことは禁じられていたため、家茂を源頼朝に見立てて描いている。



月岡芳年 末廣五十三次見附



二代歌川広重 末廣五十三次浜松



月岡芳年 末廣五十三次舞坂



二代歌川国輝 末廣五十三次荒井



二代歌川広重 末廣五十三次白須賀



歌川貞秀 末廣五十三次二川



二代歌川国輝 末廣五十三次宮



月岡芳年 末廣五十三次桑名



月岡芳年 末廣五十三次草津

No. 23

倭げんじ東海道荒井風景

やまと

歌川芳艶 文久3年(1863)4月 縦大判
家茂の上洛風景を頼朝に仮託したもの。
装束が平安衣装である。



歌川芳艶 東海道荒井風景

No. 24・25

東海道

二代歌川広重 元治元年(1864)2・3月 縦中判
吹き流しや槍先の行粧にまず目がいく風景の描写は
風景画の広重の真骨頂。



二代歌川広重 東海道阿ら井



二代歌川広重 東海道白須賀



No. 26 東海道五十三次 新井風景

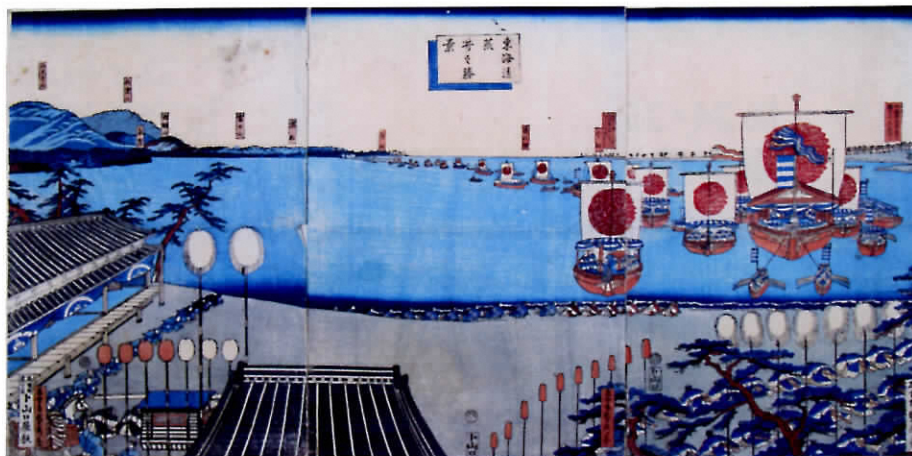
歌川芳盛

文久3年(1863)4月 縦大判3枚続
関所役人たちは下座し将軍の出迎え
をしている。関所の前や面番所の中
には飾り武具が描かれている。

No. 27 東海道今切勝景

歌川芳虎

文久3年(1863)4月
縦中判3枚続
今切を行く将軍を乗せた御
座船を中央に大きく描く。
真っ赤な笹竜胆と船が印象
的な作品。



No. 28 東海道荒井之勝景

歌川貞秀

文久3年(1863)2月 縦大判3枚続
上陸後に将軍が乗るためであろうか、
乗物と白馬が関所に置かれ、将軍を
待ち構えている。

No. 29 頼朝公上京之図

歌川貞秀

慶応元年(1865)閏5月 縦大判3枚続
将軍の姿を直接描くことができな
かったため、頼朝公に仮託して描いて
いる。武家の棟梁で征夷大將軍であ
る頼朝の建久元年(1190)の奥州制
圧後の上洛に因んでいる。



絵師略歴

歌川芳虎 (よしとら)

生没年不詳

本名永島辰五郎。国芳の門人。号は一猛斎、錦朝楼、孟斎。明治維新時に活躍し、横浜絵、文明開化絵や西欧風俗画を描いた。

歌川貞秀

文化4年(1807)～没年不詳

本名橋本兼吉。国貞の門人。号は五雲亭、玉蘭斎。横浜絵の第1人者。

歌川芳盛

天保元年(1830)～明治18年(1885)

本名三木作蔵。国芳の門人。号は一光斎、光斎、さくら坊。絵草子本の挿絵や花鳥画を描く。

二代歌川国綱

文化2年(1805)～慶応4年(1868)

本名山田金次郎。国貞の門人。号は一蘭斎、一曜斎。後に二世国輝を襲名。絵草子本や明治絵を得意とした。

豊原国周 (くにちか)

天保6年(1835)～明治33年(1900)

本名荒川八十八。号は一鶯斎、花蝶楼、豊春楼。国貞の門人。初めは羽子板師の弟子であった。家茂上洛時には28歳。

三代歌川豊国

天明6年(1786)～元治元年(1864)

本名角田庄蔵。歌川国貞(初代)。豊国の門人。号は一雄斎、五渡亭、香蝶楼、不器用又平など。役者絵や美人画で人気を博す。

河鍋周磨 (かわなべ ちかまる)

天保2年(1831)～明治22年(1889)

号は暁斎、狂斎、酒乱斎、雷酔、酔雷坊など。大酒飲みであった。7歳で国芳の門人となった。戯画が得意。

月岡芳年 (よしとし)

天保10年(1839)～明治25年(1892)

本名吉岡米次郎。国芳の門人。号は玉桜楼、一魁斎、太蘇など。12歳で弟子入り。残酷絵で人気を博し、新聞錦絵などを描いた。

二代歌川広重

文政9年(1826)～明治2年(1869)

本名鈴木鎮平。初代広重の門人。号は重宣、一幽斎、一立斎。「諸国名所百景」など風景で師風を継承。

二代歌川国輝

天保元年(1830)～明治7年(1874)

本名山田国次郎。3代豊国の門人ではじめは2代国綱を名乗る。号は一雄斎、一曜斎。相撲絵や鉄道絵などの明治開化絵を描いた。

歌川芳艶 (よしつや)

文政5年(1822)～慶応2年(1866)

本名甲胡万吉。号は芳艶、一栄斎、一英斎。国芳の門人。武者絵を得意とした。駕籠屋の息子。



No. 30 東海道箱根山中図
歌川貞秀 縦大判 3枚続
※展示はしていません。

展示品目録

Nº	展 示 資 料	作 者	年 代	形 態
1	東海道名所図会 日本橋～京	歌 川 芳 虎	元治元年 (1864) 10 月	縦大判・12 枚続
2	(御上洛東海道) 東海道之内 生麦	歌 川 貞 秀	文久 3 年 (1863) 5 月	縦大判
3	(御上洛東海道) 東海道 神奈川	歌 川 芳 虎	文久 3 年 (1863) 4 月	縦大判
4	(御上洛東海道) 東海道 箱根	歌 川 芳 盛	文久 3 年 (1863) 4 月	縦大判
5	(御上洛東海道) 東海道 島田	二代歌川国綱	文久 3 年 (1863) 4 月	縦大判
6	(御上洛東海道) 東海道 袋井	二代歌川国綱	文久 3 年 (1863) 4 月	縦大判
7	(御上洛東海道) 東海道 浜松	歌 川 芳 盛	文久 3 年 (1863) 4 月	縦大判
8	(御上洛東海道) 東海道 舞坂	月 岡 芳 年	文久 3 年 (1863) 4 月	縦大判
9	(御上洛東海道) 東海道 荒井	三代歌川豊国	文久 3 年 (1863) 4 月	縦大判
10	(御上洛東海道) 東海道 白須賀	二代歌川国綱	文久 3 年 (1863) 4 月	縦大判
11	(御上洛東海道) 東海道之内 二川	豊 原 国 周	文久 3 年 (1863) 4 月	縦大判
12	(御上洛東海道) 東海道 吉田其二	三代歌川豊国	文久 3 年 (1863) 4 月	縦大判
13	(御上洛東海道) 東海道名所之内 秋葉山	河 鍋 周 磨	文久 3 年 (1863) 5 月	縦大判
14	末廣五十三次 見附	月 岡 芳 年	慶応元年 (1865) 閏 5 月	縦大判
15	末廣五十三次 浜松	二代歌川広重	慶応元年 (1865) 閏 5 月	縦大判
16	末廣五十三次 舞坂	月 岡 芳 年	慶応元年 (1865) 閏 5 月	縦大判
17	末廣五十三次 荒井	二代歌川国輝	慶応元年 (1865) 閏 5 月	縦大判
18	末廣五十三次 白須賀	二代歌川広重	慶応元年 (1865) 閏 5 月	縦大判
19	末廣五十三次 二川	歌 川 貞 秀	慶応元年 (1865) 閏 5 月	縦大判
20	末廣五十三次 宮	二代歌川国輝	慶応元年 (1865) 閏 5 月	縦大判
21	末廣五十三次 桑名	月 岡 芳 年	慶応元年 (1865) 閏 5 月	縦大判
22	末廣五十三次 草津	月 岡 芳 年	慶応元年 (1865) 閏 5 月	縦大判
23	倭げんじ東海道荒井風景	歌 川 芳 艶	文久 3 年 (1863) 4 月	縦大判
24	東海道 阿ら井	二代歌川広重	元治元年 (1864) 2 月	縦中判
25	東海道 白須賀	二代歌川広重	元治元年 (1864) 3 月	縦中判
26	東海道五十三次 新井風景	歌 川 芳 盛	文久 3 年 (1863) 4 月	縦大判・3 枚続
27	東海道今切勝景	歌 川 芳 虎	文久 3 年 (1863) 4 月	縦中判・3 枚続
28	東海道荒井之勝景	歌 川 貞 秀	文久 3 年 (1863) 2 月	縦大判・3 枚続
29	頼朝公上京之図	歌 川 貞 秀	慶応元年 (1865) 閏 5 月	縦大判・3 枚続
30	東海道箱根山中図	歌 川 貞 秀	文久 3 年 (1863) 2 月	縦大判・3 枚続

Nº 30 は図録 7 ページ目の掲載のみで展示はしていません。

館蔵浮世絵版画展 上洛を描いた版画

令和 4 年 1 月 4 日発行

新居関所史料館

静岡県湖西市新居町新居 1227-5

TEL/FAX 053(594)3615